R７．７．11　学習会参加者アンケートのまとめ

A：本日の研修で印象に残ったこと・内容を記入ください。

1　虐待と愛着障害の深い関連性の理解

・虐待の要因や、発達障害と愛着障害の類似点・関連性について学び、判断の難しさを実感した。
・ADHD と愛着障害の子どもが似た行動を取ること、親自身にも障害や愛着の問題がある場合があることを理解した。

2　児童養護施設や心理治療施設の実態に衝撃

・動画を通して、虐待の傷が深い子どもたちの姿や、施設での生活の様子に強い印象を受けた。
・子どもが抱える問題の深さや、感情のコントロールが困難な様子に心を動かされた。

3　支援の具体的な方法と保育者としての対応の重要性

・挑発的な態度に対して冷静に対応することの大切さを再確認した。
・保育者の言葉かけや態度、褒め方・叱り方など、ソフト面の支援の重要性を学んだ。

4　ハード面・ソフト面の底上げによる支援の質向上

・大人の人数に限りがある中で、環境整備（ハード面）と関わり方（ソフト面）の両面を強化することで、個別支援が必要な子どもを減らす可能性に気付いた。

5　自身の保育実践の振り返りと今後への意識

・研修を通して、自分の保育を振り返るきっかけとなり、今後の支援に生かしたいと思った。
・幼い頃に愛情を注ぐことの重要性を再認識し、周囲の大人としての役割を改めて考えた。

A：本日の学びや気付きを生かし今後どのように取り組もうと思われますか。

1　子ども理解の深化と観察力の向上

・子ども一人一人の背景や特性を丁寧に見取り、愛着障害や発達障害の兆しに早期に気付けるよう、日々の観察を大切にする。
・子どもの行動の背景にある家庭環境や育ちの歴史にも目を向け、表面的な行動だけで判断しない姿勢を持つ。

2　ソフト面の支援力の向上

・誉め方・叱り方・指示の出し方等、子どもとの関わり方（ソフト面）を日々振り返り、より良い関係性を築くために磨いていく。
・感情的にならず、冷静で一貫した対応を心掛け、子どもにとって安心できる大人であることを意識する。

3　チームでの支援体制の構築

・園内研修や職員間の情報共有を通じて、支援の視点や対応方法をチーム全体で共有し、組織としての支援力を高める。
・管理職やリーダーとして、学びを職員に伝え、支援の質を高めるための研修や仕組みづくりに取り組む。

4　保護者や地域との連携強化

・保護者との関係づくりを大切にし、子どもを取り巻く環境全体を支援する視点を持つ。
・保育者だけでなく、保健師や市職員など他職種とも連携し、気になるサインを見逃さず、早期支援につなげる。

5　継続的な学びと実践の深化

・愛着障害や発達障害についてさらに学びを深め、理論と実践を結びつけながら支援の幅を広げていく。
・自身の保育や支援を常に振り返り、子どもにとってよりよい環境をつくるために、柔軟に工夫し続ける姿勢を持つ。